

〈巡回きこえとことばの学習会〉

7月23日～8月27日までの夏季休業中に、瑞浪市、養老町、安八町にて巡回きこえとことばの学習会を実施しました。各地域の園・小中学校教員、聴覚障がい児に関わる関係者の方々を対象者として、3つの会場合わせて約70名の参加申込がありました。

講師に、愛知教育大学特別支援教育講座教授の岩田吉生先生をお招きし、『きこえに困難のある子どもの指導と支援～ユニバーサルデザインと個別最適化を目指す指導の在り方～』という演題で、聴覚障がい児のきこえの理解、就労、認知、ユニバーサルデザイン等、幅広い内容でご講話をいただきました。講演の中では、「聞こえることと理解できることは異なること」についての話をもされ、その中で「聞こえる人が音声言語を聴取理解する際、聞くことへの注意が10%、理解60%、記憶30%であるのに対し、難聴の人は聞くことへの注意40%、理解40%、記憶20%である。つまり難聴の方は、聞くことへの注意の負担が大きく、そこにかかなりの集中力を使うため、覚えることが難しくなってしまう場合があるため、『聞き漏らしがあっても理解できる支援』と、『聞きながら、見ながら考える習慣』が大切だ」と話されました。このことについては、参加者から「『聞きながら、見ながら考える習慣』が大切で、聞くだけでは情報は流れてしまい身に付かない。このことを忘れないように今後の支援に生かしていきたい」等の感想が多く聞かれました。

7/26（金） 瑞浪市



7/31（水） 養老町



8/2（金） 安八町

